
また逢おう。

宝玉

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

また逢おう。

【Zコード】

N1686D

【作者名】

宝玉

【あらすじ】

クラスの人にいじめられる日々。一人の少女が自殺を図ろうとしていた。そこに偶然通りかかった男が少女を奇跡的に救つた・・・。

いつもより、びしょ濡れで。

いつものように、いじめられて。

いつものように、私の家に向かう。

帰つたつて父さんも母さんもいない。父さんは病死、母さんは事故死。相談する人もいない。さあ、私も母さんたちの後を追つて死んでしまおうか？ その気になれば、いつでも死ぬ勇気はできるんだあ・・・。

ばいばい、私の育った町。

ばいばい、いつもの風景。

飛び降りがいいかな？ リストカット？ 何でもいい。自分の存在が憎い。もしかしたら私、生まれてこなければ良かつた人間なのかな？

「わあ、高い・・・」

私の住んでいるマンションの屋上。そこに私は、しらずしらずのうちに来ていた。風が冷たい。もう多分、私の目は死んでる。きっと、死ぬのが怖くないんだ。私はフェンスに手をかけ、飛び降りる準備をした。そして、手をフェンスから離し、飛び降りた。

「あははははははは、私が死んでも、悲しむ人なんていない。あはははは！」

私は狂ったように叫びながら下に落ちていった。風が冷たい。からだが痛い。でもこれで、全部終わりに出来る！ 私の受けた悲しみ、痛み、苦しみが全て無くなる！ いいことだ、いいことだよ。もう少しで地面。死ねる、死ねる！ 待ってね、父さん、母さん。今、向かう途中だよ。

ぼふつ！

私は地面にあたつていなかつた。痛くない。男の人が私を、支えている？

「あぶねつ、なんだ、自殺か？」

「だあれ？ 私の天国への道をふさいだのは・・・」

私は男をにらんだ。もう少しだつたのに。あと少しで逝けたのに！

「私は死ぬ覚悟はいつでも出来る。邪魔を・・・しないで」

「はあ？ 狂つてるとか、あんた。死ぬなんて簡単に、言うなよ」

なんで、そんなことを言うの？ あなたには関係ない話。首を・・・

・突っ込まないでくれるかな？

「あなたには、関係の無いこと」

「いじめ・・・？」

「そう。いじめ」

平凡そうなあなたには考え方がないことでしょう。ビリせ、ふん、あつそ。ぐらいしか言わないで行つてしまふんでしょう、あんた。

「オレも・・・いじめにあつてたよ」

「・・・？」

こんな平凡そうな男がいじめにあつてた？ 私と同じよ！」・・・

「オレ、いつもチャットで励ましてもらつてた。たまにメッセージくれたり、メールくれたり。でも、ある日そいつが、急にチャットに来なくなつた。暇だつたからテレビをつけてみた。そしたら・・・

「そ、そしたら・・・？」

私はいつのまにか男の話を懸命に聞いた。

「そいつが・・・殺されたんだよ！！」

「・・・え？ ロロサレタ？ 自然に男の瞳からきれいな涙がぽろぽろとこぼれた。そのことに気づいた男は、涙をぬぐつた。

「・・・泣いていいよ」

「はっ？」

「泣いていいってば！ 思いつきり、今だけだよ？」

「・・・ありがとな」

私は男をぎゅうっと抱きしめた。男も私をぎゅうっと抱きしめた。

男はわあーっと泣き出した。まるで、小さい子供みたい。

男が泣いてから少し経った。いつのまにか男は泣き止んでいた。

「・・・『じめん』

「いいの、いいの！ ああ、今考えると私のしようとしてたことば、

「ばかっぽいなあ」

「もうこれから、死ぬ、自殺、とかは言ひなよ。いいな」

「うん」

「あと、またお前のとこで泣いていいか？」

「うん」

「さんわゆ」

本当に、バカだったな、私のやうにしてたこと。もう、死なない。今考えて見えてみれば、結構いい世の中だったかもね。

「こんなにも風が気持ちいいのに。」

「こんなにも優しい人が存在するのに。」

また泣いていいよ。あんたに逢えるなら、いつでもいい。命の大
切さ、生きることの楽しさを教えてくれて、命の恩人だもん。
あしたでも、あさつてでも、何年後でもいい。ずっと待っています。
またここで、逢おうね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1686d/>

また逢おう。

2011年1月28日02時45分発行